

■英語の諺 601-700

★20220430 高橋伸治

601

Don't think, feel!

日本語訳

考えるな、感じろ！

この言葉は、1973年公開の、ブルース・リー主演のハリウッド映画「燃えよドラゴン」で、主人公（ブルース・リー）が弟子の少年に言う台詞として知られています。

ブルース・リー（Bruce Lee）は1940年生まれの、香港の中国武術家、武道

家、俳優、映画監督であり、カンフー映画というジャンルを確立したことで知られています。

1970年代の少年たちは誰もが知っている言葉でした。

602

Like cures like.

日本語訳

似たものが似たものを直す。

果たして、どのような状況で使われるかはわかりませんが、日本の諺としては「毒をもって毒を制す。」に近いかも知れません。

歴史的には、アロマテラピーに近い、イギリスの 18 世紀末の民間療法の「ホメオパシー（homeopathy）の原則を表した言葉と言えます。

この原則は、例えば、喉の痛みがある病気の場合、元々喉をヒリヒリさせる濃いめの生姜湯を処方するというものです。

603

Narrow gathered, widely spent.

日本語訳

苦勞して集められて、広く使われる。

日本の諺としては、教育上問題がありますが、「納豆売りの女郎買い」に近いようです。

江戸時代に、単価の安い納豆をこつこつ売り歩き、大金が必要な吉原に行ってしまうようなことがありました。このことを諷めて言った言葉と言えます。さて、標記の諺では「narrow」がキーワードと言えます。説明するまでもなく、「幅が狭い」という意味が元ですが、ここでは、「やっとの・かろうじての」という意味で使われています。

604

Like father, like son.

日本語訳

父親のように、息子のように。

日本の諺としては、「この親にしてこの子あり。」や「蛙の子は蛙」が対応しています。

要するに、子どもが親の風貌や能力を受け継いでいることを見た時に言う表現と言えます。

時には、失敗や犯罪も、親と同じであるかも知れません。

少し難しい同じ意味の諺として「The apple never falls far from the tree.」があります。

対になる諺としては、「Like mother, like daughter.」があります。

605

I' ll be back.

日本語訳

私は戻ってくるだろう。

標記は、日常的に会話で使われる表現ですが、1984年に公開されたハリウッド映画「ターミネーター」で主演したアーノルド・シュワルツェネッガーの決め台詞として知られています。

当初、「I' ll be back.」は女性的な響きがあり、改造人間である主人公は、むしろ「I will be back.」と「一語一

語機械的に発音した方がいい」と、彼は主張しましたが、監督は聞き入れなかったというエピソードが残っています。

606

Nurture is above nature.

日本語訳

養育は天性より上である。

日本の諺としては、「氏より育ち」が対応しています。

人の能力や資質は、生まれつきの要素がありますが、それ以上に後天的な要素が大きいという考え方を表しています。

す。

「nurture」は元々は「育てる・養育する」という動詞ですが、ここでは「養育」という名詞で使われています。

標記に近い諺として、「Habit is second nature.」（習慣は第二の天性である。）があります。

607

Enough is as good as a feast.

日本語訳

十分はご馳走と同じぐらい良い。

日本の諺としては、「足るを知る。」に

通じますが、多少ニュアンスが違います。

要するに、普通の食事であっても、満腹していれば、ご馳走を食べたのと同じ満足があるということです。

イギリスでは、17 世紀の文献に登場し、それから現在に至るまで日常的に使われているようです。

「enough」を含む有名な諺として、「A word is enough to the wise.」

（一を聞いて十を知る。）があります。

608

Soon learnt, soon forgotten.

日本語訳

すぐに学べて、すぐに忘れる。

日本の諺としては、江戸時代に生れた「早合点の早忘れ」が対応しています。標記の諺も日本の諺も、記憶や学習に関する経験則から生まれたものと考えられます。

短期間で記憶して理解したと思ったことが、その背景や構造を把握していなかったために、早々と忘れてしまうということです。

要するに、「There is no royal road to learning.」（学問に王道なし。）ということです。

609

No answer is also an answer.

日本語訳

返事なしもまた一つの返事である。

日本の慣用句としては、「無しのつぶて」がありますが、これは返事がないことへの憤りを意味します。

標記は、こちらからの問い合わせに対して、返事がないのは、少なくともポジティブな反応ではいことを暗示しています

因みに、返事をしない側が気を付けなければいけないと円は、「Silence

means consent.」(沈黙は同意を意味する。)と受け取られる場合があるということです。

610

Nothing seek, nothing find.

日本語訳

何も探さない、何も見つからない。

新約聖書マタイ伝に由来し、日本の諺に対応するものではありません。

実はこの部分には、「求めよさらば与えられん」が前段にあり、こちらの方がより有名です。

因みに、マタイ伝の原書はギリシャ語

ですが、英語では「Ask, and it will be given to you」となります。

「seek」を含む諺として、「Seek mickle and you get something, seek little and you get nothing.」（多くを求めれば何か手に入れ、少なく求めれば何も得ない。）があります。

611

Don' t teach fishes to swim.

日本語訳

魚に泳ぎ方を教えるな。

日本の諺としては、「釈迦に説法」でしょうか。

まず、「釈迦に説法」ですが、この意味は、「膨大な知識を持つお釈迦様に、偉そうに知識をひけらかすことは愚かである。」ということです。

因みに、日本の諺としては「釈迦に説法、孔子に悟道」という対になった表現もあります。

標記の諺は、「釈迦に説法」に比べて、極めて平易であり、説明を要しません。

612

Out of the frying pan into the fire.

日本語訳

フライパンから出て、火の中へ。

日本の諺としては、「一難去ってまた一難」、あるいは「踏んだり蹴ったり」に対応します。

それにしても、標記の諺の状況がどのようなものかを把握するのが難しいですね。フライパンの中にいたのは、一体、誰だったのでしょうか？

想像をたくましくすると、魚が生きのままフライパンで炒められていて、跳ねて飛び出したが、そこは燃え盛る薪の上だったということでしょうか。

いつか使ってみたい諺ですでね、

613

Fortune is fickle and blind.

日本語訳

運は不安定で先が見えない。

日本の諺では、「当たるも八卦当たらぬも八卦」に通じると言えます。

まず、「八卦」（はっけ）ですが、中国の易学の基本の八要素のことで、この組み合わせで人の運命を占うわけです。

「当たるも八卦当たらぬも八卦」とあるように、確実ではないという認識があり、標記に通じることになります。

標記の諺の中の「fickle」は見慣れない言葉ですが、「不規則な・不安定な」という意味の形容詞です。

614

Patience wears out stones.

日本語訳

忍耐は石を穿つ。

日本の諺としては、「石の上にも三年」に対応します。

そもそも、「石の上にも三年」とは、「石の上は冷たくて辛いですが、辛抱していればよい報いがある。」ということのようです。

改めて考えてみると、あまり状況がイメージできませんね。

同じ意味の諺として、「Perseverance

prevails.」や「Patience wins the day.」があります。

615

Sink or swim.

日本語訳

沈むか泳ぐか。

日本の諺としては、ピッタリのものは見当たりませんが、慣用句としては「やるしかない」に近いでしょうか。要は、「溺れたくなければ泳げ。」ということであり、つまらぬ弱音を吐く相手に対しての檄と言えます。

ハムレットの台詞「To be or not to be.」（生きるべきか死すべきか）ではありませんが、かなり強力に意識すると、「Choose between to die or to live.」ということになります。

616

One instance shows all.

日本語訳

一つの事例がすべてを示す。

日本の諺としては、「一事が万事」に対応しています。

要は、一つの事例を見れば、すべて想像できるとするものです。概ねネガテ

ィブなことに使われます。

例えば、私もそうですが、一つの文章に誤字脱字があれば、「ち密な人ではない」とされるわけです。論理的に言うとは演繹法ですね。

文末に、「the rest」を加えて、「One instance shows all the rest」というバージョンもあります。

617

Safety first.

日本語訳

安全が最初。

日本の慣用句としては、「安全第一」が

ピッタリ対応しています。

工場などの製造現場や土木建築現場では、何よりも優先されるべき行動規範と言えます。

2016年のアメリカ大統領選挙において、トランプ陣営はスローガンとして「America First!」を掲げ当選を果たしました。また、日本でも都議会議員選挙において、「都民ファースト」が大スローガンになりました。

618

Wear two hats.

日本語訳

二つの帽子をかぶれ。

これは諺と言うより、「一人二役をする。」という熟語表現と言えます。日本の表現としては「二足の草鞋を履く。」ということでしょうか。

ただし、日本の「二足の草鞋を履く。」は、例えば江戸時代、博打打とおかっぴきという、好ましくない二役を意味しますが、英語表現は必ずしもそうではありません。

例えば、大学教授と女優の組み合わせで、「She wears two hats.」と表現することができます。

619

To be in the same boat.

日本語訳

同じ船に乗ること。

日本の諺としては「一蓮托生（いちれんたくしょう）」が対応しています。要するに、運命共同体ということです。

標記の表現は、とりわけ含みはありませんが、むしろ、「一蓮托生」の方に説明が必要でしょう。

「一蓮托生」は、仏教における死後の世界観 に由来し、「一つの蓮（はす）の花 」の上に、「他のものに頼って生きること 」という深い意味があります

East is East and West is West.

日本語訳

東は東そして西は西。

日本の諺としては、ピッタリなものは見当たりません。

一見、当たり前前のことを述べているに過ぎないと思われそうですが、背景にはキリスト教的な文化があるようです。

この表現を確定させたのは、20 世紀イギリスの小説家、詩人、ラドヤード・キプリング (Rudyard Kipling) であり、「東と西のバラード」という詩集の一節とされています。

要は、ヨーロッパと中東より東の世界は相容れないという意味になります。

621

Nothing is impossible.

日本語訳

不可能なものはない。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

まず、「不可能」と言えば、ナポレオンの辞書に不可能という文字はないというエピソードを思いまします。

標記は、以前から使われていた表現と思われませんが、1970年代に活躍したヘビー級ボクサーのもハメット・アリの言葉とされています。

また、「impossible」は、トム・クルーズ主演の映画シリーズ「Mission: Impossible」で知られています。

622

Over shoes over boots.

日本語訳

靴を超えて長靴を超えて。

日本の諺としては、「毒を食らわば皿まで」が対応しているとされていますが、かなりニュアンスが違います。

「毒を食らわば皿まで」の場合は、「一度悪事に手を染めてしまったら、徹底

的にやれ。」と悪事の勧めとも言えます。標記の諺は、「靴が水に浸かったからといって、やめるんじゃない。長靴を超えてもやれ。」という意味で、特に悪事の勧めではありません。

623

Time lost cannot be recalled.

日本語訳

失われた時間は呼び戻せない。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

説明するまでもなく、時の進行は不可逆的です。そういう意味では標記の諺

は当然のことを述べたにすぎません。
変化形として、「Time lost cannot be won again」や「Once lost, time cannot be recalled.」、また、同じ意味になる「One cannot put back the clock.」（時計の針は巻き戻せない。）という諺があります。

624

Old friends and old wine are best.

日本語訳

古い友人と古いワインは最高である。

日本の諺として、「友と酒は古いほどよ

い。」がありますが、標記の諺の翻訳かも知れません。

私はワイン通ではありませんが、標記の感覚はわかるような気出します。

「friend」を含む最も有名な諺として、「A friend in need is a friend indeed.」（必要な時の友が真の友である。）があります。

また、「wine」を含む諺としては、「Good wine needs no bush.」（良いワインには看板は要らない。）があります。

625

Only virtue never dies.

日本語訳

美德のみが決して死なない。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

「virtue」とは、物質的な見返りを求めない精神的な名誉などの意味であり、永遠に消えないということです。

「virtue」を含む諺として、「Virtue is its own reward.」（徳はそれ自体が報酬である。）があります。

また、「never die」を含む諺として、マッカーサーの言葉とされる、「Old soldiers never die, they simply fade away.」があります。

626

Good swimmers are oftenest drowned.

日本語訳

良い泳者は最も度々溺れる。

日本の諺としては、「河童の川流れ」が近いかも知れません。

しかし、標記の諺は、「河童の川流れ」よりも一歩踏み込んで、「oftenest」としています。

こう考えると、得意な分野のことでも、

「Even monkeys sometimes fall off a tree.」のように「油断をすると失敗する。」から、標記のように「むしろ度々失敗する。」との違いがあるようです。

変化形として、「Good swimmers at length are drowned.」があります。

627

Great barkers are no biters.

日本語訳

偉大な吠え手は噛み手ではない。

日本の諺としては、「痩せ犬の遠吠え」や「弱い犬ほどよく吠える。」が対応しています。

例外的に、吠えてなおかつ噛む犬もいないわけではありませんが、洋の東西を問わず、同じ経験則が見られます。

同じ内容の諺として、「Barking dogs seldom bite.」があります。

人間社会における比喩としては、大言

壮語する人間ほど、いざとなるとだら
しがないという意味になります。

628

The die is cast.

日本語訳

賽は投げられている。

日本でも、「賽は投げられた」として、
ほぼ諺と認識されていると思います。

これは、古代ローマにおいて、ジュリ
アス・シーザーが、周辺部からローマ
市に攻め入る際に語った言葉とされて
います。

ゲームの出目を決める賽＝サイコロが

すでに投げられていることを示しています。

「cast」ではなく、「thrown」を使った「The die is thrown.」という変化形もあります。

629

Nature is the best physician.

日本語訳

自然は最高の医師である。

日本の慣用句としては、「医食同源」があり、一部通じるものがあると思います。

洋の東西を問わず、古代から薬草によ

る治療方法は、まさに自然からの贈り物だったわけです。

また、動物たちも、泥沼を活用して体表の寄生虫を駆除したり、温泉に浸かったりしています。

因みに、「physician」は医者の中でも「内科医」のことです。

630

Live and learn.

日本語訳

生きて学べ。

諺ではありませんが、「人生すべて勉強だ。」は日本の慣用句と言ってよいでし

よう。

わかりやすく語呂もいいので、よく知られている表現であり、「Live & Learn」というゲームソフトとしても有名です。また、JR東日本などにコールセンター業務を提供している株式会社「Live and Learn」があります。変化形として、「Well live and learn！」も使われています。

631

Nature passes nurture.

日本語訳

天性は養育を越える。

日本の諺としては、「蛙の子は蛙に」に近いでしょうか。「氏より育ち」の反対の意味になります。

標記の主語と目的語を逆にした、「Nurture passes nature.」であれば、「氏より育ち」に対応しますが、そうではないようです。

考えてみると、現実社会においては、「やはり血筋は争えない。」ということも、「生まれつきより育ちが第一」ということ、どちらも存在する現象です。

632

A single life is best.

日本語訳

独身生活が最高である。

日本の諺としては対応するものはありませんが、現代においては、「独身貴族」とい慣用句があります。

おそらく、以前の日本社会においては、「家」という考え方があり、結婚して夫婦になることが当然であったため、「独身の気軽さ」が諺にならなかつたと思われます。

標記は、イギリス社会においては、このような価値観を表明することができたということを示しています。

633

A poet is born, not made.

日本語訳

詩人は生まれつきであり、作られない。

日本の諺としては対応するものはありませんが、慣用句として「天賦の才」という言葉があり、標記と同様の考え方と言えます。

確かに、「天才とは1%の閃きと99%の汗である。」という言葉があり、「努力は天才に勝る」分野はあると思いますが、心の琴線に触れる言葉を紡ぎ出す詩人の能力は、努力によって得られるものではないと思います。

A promise is a promise.

日本語訳

約束は約束である。

日本の諺としては対応するのものは見当たりませんが、慣用句として、「約束は約束だ。」があります。

この慣用句は、主に約束の履行を迫る者が相手に言う台詞です。

私たちの世代は、太宰治の「走れメロス」で「約束」の重さを学びました。

因みに、皮肉な諺として、「Promises, like pie-crust, are made to be broken.」（パイの薄皮のように、約束は破られるために作られる。）があります。

635

Long life has long misery.

日本語訳

長い人生は長い苦難を持つ。

日本の慣用句としては、「命長ければ恥多し。」が対応しています。

「misery」は「悲惨・苦痛・苦難」という意味であり、1990年公開のホラー映画の題名「ミザリー」にもなっています。

一般的には、長寿は祝福されるべきことですが、当人にとっては楽しいことばかりではなく、人生が長い分、苦し

みも多いわけです。

最近の考え方としても、長寿であつても寝たきりの状態が長いのは望ましくなく、「健康寿命」が長いことが望まれています。

636

The mean is the best.

日本語訳

中間が最高である。

日本の慣用句としては、「中庸」でしょうか。

この「中庸」は「極端ではないこと」を意味し、古代中国の儒学の祖、孔子

が最高の「徳」とした考えです。

さて、「mean」は同じスペリングで、語源が異なる3つの言葉があると考えるべきです。

まずは、「意味する・意図する」という動詞であり、最も知られています。2番目は「みじめな・みすぼらしい」という形容詞です。

ここで使われているのは、3番目の「中間・中間値」という名詞で、主に数学で使われるものです。

637

Home is where you make it.

日本語訳

家庭はあなたが作るもの。

日本の諺としては、「住めば都」が対応すると言われていています。

「住めば都」は「どこに住んでも、住み慣れれば都のように素晴らしい」という意味であり、標記とニュアンスの違いがあります。

「home」は、「Make yourself at home.」のように、「くつろげる場所」ということになります。

また、「make it」は、「You can make it.」（あなたはやり遂げられる。）のように使われます。

638

A sound mind in a sound body.

日本語訳

健全な身体の中に健全な精神。

日本の諺としては、「健全なる精神は健全な肉体に宿る。」がありますが、標記がこのように翻訳されたものと考えられます。

「sound」は、「音・音がする」という意味の言葉と同じスペルで、語源の異なる「健全な・思慮分別のある」という意味の言葉があり、ここは後者が使われています。

因みに、スポーツ用品のブランド「Asics」（アシックス）は標記を意味するラテン語の頭文字をとって作られた言葉です。

639

Time heals all wounds.

日本語訳

時がすべての傷を癒す。

日本の諺としては、ピッタリなものは見当たりませんが、「時が癒してくれる」や「時が解決してくれる」という表現はよく使われています。

これらの表現は、主に精神的な傷を意味しますが、標記は「すべての傷」と言い切っていて、肉体的な傷も含んでいることになります。

別の諺として、「Time is a great

healer.」(時は偉大な治癒者である。)
があります。

640

Never do things by halves.

日本語訳

物事を中途半端にするな。

日本の慣用句として、「馬鹿の三寸間抜けの一寸」、あるいは、「間抜けの三寸馬鹿の開けっ放し」があり、引き戸などをきちんと閉めないままにしておく人を揶揄するものです。

標記の諺中の「by halves」の「halves」は「half (半分)」という名

詞の複数形 であり、「by halves」は「半分で」という意味から、「中途半端で」というニュアンスになります。

641

All geese are swans.

日本語訳

すべてのガチョウは白鳥である。

日本の慣用句としては、「手前みそ」が近いようです。

その昔、自家製の味噌を作る文化があり、やはり、自分で苦労して造った味噌を自慢したことに由来しています。

標記の諺は、自分のガチョウは、白鳥

のように美しく思えるという意味になります。

因みに、「geese」は「goose」の複数形です。

変化形として、「All his geese are swans.」があります。

642

Every thing has an end.

日本語訳

すべてのことに終わりがあある。

日本の諺としては、ピッタリのものは見当たりません。

標記の諺より一般的な諺として「All

good things must come to an end.」がありますが、両者の違いは「gppd」の有無です。標記の方が、限定してないだけ普遍的というべきでしょうか？

「Every thing」は「Everything」でも変わらないようです、
因みに、「ソーセージには終わりが二つある。」というジョークもあります。

643

Love needs no teaching.

日本語訳

恋に教えられることは要らない。

「love」を正面から取り上げる文化で

はないので、日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

恋は、教えを受ける必要はなく、本能の赴くまま行動をしていればよいということです。

「love」を含んで、その強力さを表現した別の諺として、「Love laughs at locksmiths.」（愛は鍵師を笑う。）や「Love finds a way.」（愛は道を見つける。）などがあります。

644

Speak well of the dead.

日本語訳

故人を誉めろ。

日本の慣用句としては、「死んだ人のことを悪く言うな。」が対応しています。また、死んだ人の悪口を言うと、「死者に鞭打つ」として、逆に非難されたりします。

「speak well of ~」が「~を誉めろ」という熟語表現なので、標記の諺は、自然発生的なものに思われますが、19世紀のアメリカの詩人、グリーンリーフ・ホイッティア（Greenleaf Whittier）の言葉とも言われています。

645

Pitchers have ears.

日本語訳

水差しは耳を持つ。

日本の諺としては、「壁に耳あり」が対応しているとされています。

確かに、水差しに持ち手があり、それを耳に見立てた表現ですが、日本の諺

「壁に耳あり障子に目あり。」とはニュアンスがかなり異なります。

標記の諺のバリエーションとして、

「Little pitchers have big ears .」

や「Small pitchers have long ears.」

などがあり、この場合は、「子どもは大人の言うことに聞き耳を立てているので気を付けろ。」という意味で使われています。

646

Patience wins the day.

日本語訳

辛抱強さが勝負に勝つ。

日本の諺としては、「石の上にも三年」が対応しています。

ただし、「石の上にも三年」の場合は、「辛さに慣れてくる」というネガティブなイメージがあり、標記の諺の方が力づけてくれます。

「the day」には「勝負・勝利」という意味があり、「wins the day」となると、「勝負に勝つ」という意味になります。変化形として、「Patient men win the day.」があります。

647

Every man has his price.

日本語訳

すべての人に彼の値段がある。

日本の諺としては、「地獄の沙汰も金次第」に通じるものがあります。

直訳的に解釈すると、明るい人間関係のように思えますが、実は「わいろの効かない人はいない。」という意味になるようです。

つまり、標記の諺の真意は、「人によって金額は異なるけれど、裏取引に応じ

るそれぞれの金額がある」ということです。

悪人がこの表現を使うシーンをイメージすると鳥肌が立ちますね。

648

A watched pot never boils.

日本語訳

見られているポットは沸かない。

日本の諺としてはピッタリの者は見当たりませんが、洋の東西を問わず、同じ経験則があるようです。

要するに、物理的な時間の進み方と、

心のあり様による感覚とは異なるということなのです。

楽しくて夢中になっている時間は速く過ぎていき、退屈な時間は長く感じるものです。

上記の諺の状況は、「まだかまだかと待っている時は、中々、そのことが起こらない。」ということなのです。

18 世紀アメリカの物理学者、政治家ベンジャミン・フランクリンの言葉とされています。

649

Truth is time's daughter.

日本語訳

真実は時の娘である。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

アメリカの行政文書が30年後や50年後に公開される制度であることは有名ですが、古代から、歴史的な出来事の真相が時代を経て明らかになることは知られていました。

標記の諺の変化形として、「Truth is the daughter of Time.」や「Truth is the daughter of God.」があります。

650

Everything has a beginning.

日本語訳

すべてのことに始まりがある。

日本の慣用句としては、「濫觴（らんしょう）」という言葉があり、「大きな川も、その源流は觴（さかずき）を濫（う）かべるほどの小さな流れである。」という意味です。

標記に、「middle, and end」を加えて、「Everything has a beginning, middle, and end.」としても使われます。

また、変化形として、「Everything must have a beginning.」があります。

Writing destroy the memory.

日本語訳

書くことは記憶を破壊する。

日本の諺としては対応する者が見当たりません。

私たちは漢字を繰り返し書くことによって、記憶してきたのですが、標記の諺は、このことを否定しています。

標記の考え方は、ノートに記録したり、最近ではデジタル的に記録すると、そのことに安心して、自分では記憶しない習慣になってしまうことを示していると思われる。

繰り返し書くか、記録したものを見直すことが必要だと思います。

652

Business before pleasure.

日本語訳

遊びの前に仕事。

日本の諺としては対応するものは見当たりませんが、1980年代のテレビＣＦのキャッチコピーに「大統領のように働き、王様のように遊ぶ。」というものがありません。

直訳すると「Work like a president and play like a king.」ということでしょうか。

因みに、「Busiest men have most

leisure.」(最も忙しい人々が最も多くの余暇を持つ。) という諺もあります。

653

No garden without weeds.

日本語訳

雑草のない庭はない。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

イギリスでは、庭を手入れすることが美德と考えられていて、その完璧さを競う文化があります。

しかし、どんなに気を付けていても、どこかに雑草が残っていて、標記の諺

が成立しているわけです。

同じ意味合いの諺として、「The peacock has fair feathers, but foul feet.」（クジャクは美しい羽根を持つが、足は汚い。）があります。

654

All is vanity.

日本語訳

すべてが空虚である。

日本の諺には対応するものは見当たりませんが、仏教の概念としては、般若心経の「色即是空（しきそくぜくう）」があり、これに通じるものがあります。

キリスト教においても、伝道の書
(Ecclesiastes) の中に、この世界の
人がなすことは「空虚」であるとして
います。

因みに、標記は「一切空 (くう)」とい
う定訳があります。

655

Sleep is better than medicine.

日本語訳

睡眠は薬に勝る。

日本の諺には、「寝る子は育つ。」があ
りますが、「睡眠が健康によい」とする
諺はありません。

睡眠と健康に関する英語の諺としては、
「Early to bed and early to rise
makes a man healthy, wealthy and
wise.」（早寝早起きは男を健康に、裕
福に、賢くする。）や「Best doctors
are Dr. Diet. Dr. Quiet, and Dr.
Merryman.」（最高の医者とは、摂食、安
静、笑いである。）があります。

656

Pity is akin to love.

日本語訳

哀れみは恋に近い。

日本の諺としては対応するものはありませんが、「同情は愛情に変わる」という言葉は耳にすることがあります。

明治時代の文豪夏目漱石の「三四郎」に標記の諺が登場し、「可哀想だた惚れたって事よ」と翻訳されていて、名訳だとの評価があるようです。

因みに、、夏目漱石は「I love you.」を「月が綺麗ですね。」と訳したことで知られています。

「akin to」は、短い単語にしては使用頻度が低い言葉で、「同種の」という意味になります。

657

Love not at the first look.

日本語訳

最初の一見で惚れるな。

日本の慣用句として「一目惚れ」がありますが、諺として「一目惚れするな」という意味になるものはありません。

「一目で」という英語表現としては、「at a glance」が最も一般的ですが、他にも「at first sight」があり、「He fell in love at first sight with her.」（彼は彼女に一目惚れした。）のように使われます。

標記の諺は、「Love」と「look」で韻を踏んだ表現にしたものと思われます。

658

Love overcomes all.

日本語訳

愛はすべてに打ち勝つ。

日本の諺としては対応するものは見当たりません。

「overcome」という言葉は、若い頃にアメリカのフォークソング「We shall overcome.」、日本語名は「勝利を我らに！」という歌で知りました。

「love」の強力さは、「Love laughs at locksmiths.」（愛は鍵師を笑う。）や「Love find a way.」（愛は道を見つける。）などがありますが、標記は「すべてに打ち勝つ」としてしますので、最

強と言えます。

660

One lie makes many.

日本語訳

一つの嘘は沢山を作る。

日本の慣用句や諺として「嘘八百」や「嘘八百を並べる」があり、通じるものがあります。

最初から事実を述べていれば、その後の状況も思い出して事実を話せばすみませんが、最初に嘘をつく「嘘を並べる」ことになります。

嘘つきに関しては、「Liars should

have good memories.」(嘘つきは良い記憶力を持たねばならない。)という諺があります。

661

Barking dogs seldom bite.

日本語訳

吠える犬は滅多に噛まない。

日本の諺としては、「食いつく犬は吠えつかぬ」と、標記の諺の逆説的なものがあります。

要は、「吠える犬」より「吠えない犬」の方が危険であるということです。

ほぼ同じ意味の諺として、「Great

barkers are no biters.」(偉大な吠え手は噛み手ではない。)

比喩としては、大きな声で自己主張する人間に限って、いざという時に実行力がないという意味で使われます。

662

Sweet meat has sour sauce.

日本語訳

甘い肉は酸っぱいソースを持っている。

日本の諺としては、「楽あれば苦あり」に対応しています。

現代的には「Sweet meat」と「sour sauce」の取り合わせは、「全体をより

美味しくする」という意味になるように思えますが、この諺の設立当時はそうではなかったということです。

標記は、現在形の平叙文ですが、変化駅として、「Sweet meat will have sour sauce.」や「Sweet meat must have sour sauce.」があり。少しニュアンスが異なります。

663

Wake not a sleeping lion.

日本語訳

眠っているライオンを起こすな。

日本の諺としては、「寝た子を起こす

な。」が対応しています。

洋の東西を問わず、乳幼児が泣いていて、ようやく寝付いたのに、起こしてしまうようなことをして聾蹙を買うことが少なくないようです。

他の例えにも使われますが。基本的にはようやく寝付いた乳幼児のことです。よく似た諺として、「Let sleeping dogs lie.」（寝ている犬を横たえておこう。）があります。

664

So many countries, so many customs.

日本語訳

かなり多くの国、かなり多くの習慣。

日本の諺としては、「所変われば品変わる。」がピッタリです。

洋の東西を問わず、土地や地域が異なれば、衣食住に関して、特有の品々があり、同じものであっても名称が違い、使い方も違うということです。

そして、そのような国に行った時の諺として、「When in Rome do as the Romans do.」（ローマにいる時はローマ人のように振舞え。／郷に入らば郷に従え。）があります。

Beggars cannot be choosers.

日本語訳

乞食は選択者にはなれない。

日本の諺として、「背に腹は代えられない。」が対応しているとされていますが、むしろ、「貰いものに苦情」の方が近いと思います。

変化形として、「cannot」が「can't」や「must not」に、あるいは、「Beggars」が「Beggars and borrowers」に代わったものがあります。また、意味の近い諺として、「Don't look a gift horse in the mouth.」（貰った馬の口の中を見るな。）があります。

666

No medicine for fear.

日本語訳

恐怖に効く薬はない。

日本には対応する諺が見当たりませんが、「幽霊の正体見たり枯れ尾花」という表現があり、「恐怖心」のもたらす影響については日本でも認識されていると思います。

「fear」を含む別の諺として、「The fear is worse than the pain.」（恐怖は苦痛より悪い。）や、「Fear is often greater than the danger.」（恐怖は時

として危険よりも大きい。) があります。

667

Blood will have blood.

日本語訳

知は血を持つだろう。

日本の慣用句としては、「血で血を洗う戦い」があり、通じるものがあります。標記の諺を意識すれば、「血は血を呼ぶ。」となり、武力衝突はエスカレートするという意味で使われます。

出典は、16 世紀のイギリスの劇作家シェークスピア (William Shakespeare) の戯曲「マクベス」の一節のようです。

「blood」を含む有名な諺として、
「Blood is thicker than water.」（血は水よりも濃し。）があります。

668

Boys, be ambitious!

日本語訳

少年たちよ、野心的であれ。

日本での定訳は、良く知られているように、「少年よ大志を抱け。」です。

標記は、札幌農学校で教鞭をとったクラーク博士（William Smith Clark）の退任講演での言葉とされています。

この言葉の後に、「お金のためでも、私

利私欲のためでも、いわゆる名声のためであってはならない。」と続きます。

「ambitious」は、一般的にはネガティブな「野心」をイメージさせる言葉ですが、それを打ち消す言葉が続いていたということです。

669

So many men, so many minds.

日本語訳

かなり多くの人々、かなり多くの心。

日本の諺としては、「十人十色」が対応してします。また、「蓼食う虫も好ずき」にも通じるものがあります。

世の中には、様々な人がいて、それぞれ様々な考えがあるということです。

意味が近い別の諺として、「Different strokes for different folks.」(違う人には違う関わり。)や「There is no accounting for taste.」(味覚を説明することはできない。)があります。

因みに、構造的に同じである、「So many countries, so many customs.」

(かなり多くの国、かなり多くの習慣)という諺もあります。

670

No cross, no crown.

見本語約

苦悩無し、栄冠無し。

日本の諺としては、「苦は楽の種」、あるいは、「苦あれば楽あり」に近いでしょうか。

ただし、標記の諺の方が、単なる「楽」ではなく「栄冠」なので、得るものの価値が高いと思います。

「cross」は、イエス・キリストが十字架にはり付けにされたことから、「受難・苦痛」の意味で使われます。

同じ構造で、意味も近い諺として、「No pain, no gain.」（痛みなくして得るものなし。）があります。

Few words show men wise.

日本語訳

少ない言葉は男を賢くみせる。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、「無口は賢い」という漠然とした認識は存在しています。

英語の諺として、「He who knows most speaks least.」（最も多く知る者は最も少なく話す。）や「A still tongue makes a wise head.」（静かな舌は賢い頭を作る。）があるように、「無口」と賢さは因果関係あるいは相関関係があるとしています。

標記は、そう断定しているのではなく、「賢いように見える」としている点が

秀逸です。

672

Boys will be boys.

日本語訳

男の子は男の子になるだろう。

日本でも同じ認識はあるようですが、
諺としてはピッタリなものは見当たり
ません。

要は、男は少年の無邪気さを残して大
人になる傾向があるということです。
まあ、母親から見れば、男の子は手が
かかって、いくつになっても心配や面
倒が絶えない存在と言えます。

それでは、「girls」はどうかというと、
「But girls will be women.」というこ
とで、「boys」とは違うようです。

673

Beauty opens locked doors.

日本語訳

美貌は鍵がかかかったドアを開ける。

日本の諺としてはピッタリなものは見
当たりませんが、洋の東西を問わず、
男は美人に弱いものです。

物理的にも、比喩的にも、他の人なら
入場を許されない場所も、美人が頼め

ば許可されるということです。

「Beauty」を含む別の諺として、「Beauty is only skin-deep.」（美は皮一重にすぎない。）や「Beauty is in the eye of the beholder.」（美は見る者の目の中にある。）があります。

674

Many dishes many diseases.

日本語訳

沢山のお皿、沢山の病気。

日本の諺としては、「腹八分目」に通じるものがあります。

ヨーロッパでは「大食」(Gluttony)がキリスト教の「7つの大罪」の一つとされ、戒められています。

「glutton」(大食漢)を含む諺として、「Gluttons dig their graves with their teeth.」(大食漢たちは彼らの歯で彼らの墓を掘る。)があります。また、標記に「make」を加えた、「Many dishes make many diseases.」も使われます。

675

Wonders last but nine days.

日本語訳

驚きは9日間しか続かない。

日本の諺「人の噂も 75 日」に通じるものがありますが、使用される状況はかなり違うようです。

世の中には様々事件が起こり、センセーショナルなニュースになることもあります。次から次へと起こるので、人々の興味は続かないということです。

「wonders」を単数形にした。「A wonder lasts but nine days.」も使われます。

それにしても、何故 9 日なのか、75 日なのか教えて欲しいものです。

If you try, you can make it.

日本語訳

もしあなたが試みれば、成功できる。

日本の諺としては、「為せば成る。」が対応します。

理屈抜きで、挑戦してみることを奨励している表現であり、サントリーの「やってみなはれ」精神に通じるものがあります。

「make it」は、別の諺「Home is where you make it.」（家庭はあなたが作るもの。）のような使われ方が一般的ですが、ここでは、「成し遂げる・やり遂げる」という意味で使われています。

677

After pleasure comes pain.

日本語訳

楽しみの後に痛みが来る。

日本の諺としては、「楽あれば苦あり」に対応しています。また、古くは、「禍福はあざなえる縄のごとし」と言われるように、福ばかりが続くことはなく、逆に禍ばかりが続くわけではないということです。

同じ意味で、より端的な諺として「No pleasure without pain.」（苦痛のない楽しみはない。）があります。

要は、「楽あれば苦あり」を覚悟して生きるということです。

678

Words cut more than sword.

日本語訳

言葉は剣よりも多くを切る。

日本でも物理的な暴力に加えて、「言葉の暴力」が社会的にも認知され、「いじめ」の定義の中にも盛り込まれています。

要は、「心を傷つける言葉」は、受けた人の耐性にもよりますが、軽いもので

はないということです。

「word」ではなく、「tongue」を使用した、「The tongue is not steel, yet it cuts.」（舌は鉄ではないが、切る。）という、同じ意味の諺もあります。

679

A good man is hard to find.

日本語訳

良い人を見つけるのは難しい。

日本の諺としては対応するものはありません。

「good man」をどう定義するかにもよりますが、「非の打ちどころがない人」

としたら、難しいかも知れません。
一見したところ、普通の文ですが、20
世紀半ばに活躍したアメリカの作家、
フラナリー・オコナー（Flannery
O' Connor）の短編小説の題名「A Good
Man Is Hard To Find」として知られる
ところとなりました。

680

Everything is good in its season.

日本語訳

すべてのものが旬がいい。

諺には見当たりませんが、日本の食の

考え方の中心に「旬」があります。標記は日本の食哲学そのものと言えます。また、比喩的には、種目によって異なりますが、アスリートたちの活躍できる年代についても使えます。

因みに、「season」は「sea」（海）に係する言葉のように思えますが、実はラテン語の「種まき」に当たる言葉が語源であり、「seed」（種）と同じファミリーということになります。

681

Ask and you shall receive.

日本語訳

求めなさいそうすれば受け取るだろう。

日本の定訳は、「求めよされば与えられん。」ということになります。

由来は「新約聖書 マタイ伝」の一節で、イエス・キリストの言葉とされています。

ただし、「欲しい」と言えばただ貰えるという意味ではなく、「自分から行動を起こせ。」ということのようです。

マタイ伝の英語の定訳では、「Ask, and it will be given to you; seek, and you will find; knock, and it will be opened to you.」となっています。

Every man to his own trade.

日本語訳

全ての男に彼自身の仕事。

日本の諺としては、「餅は餅屋。」が対応します。

餅（もち）は、一見誰でももつけると考えてしまいますが、やはり、商売にしている餅屋の方がおいしいということです。

つまり、その分野のことは、やはり専門家が一番であるということです。

変化形として、「Every one to his trade.」や「Everyone for his own trade.」などがあります。

683

Know your own bounds.

日本語訳

自分の限界を知れ。

日本の慣用句としては、「身の程を知れ。」が対応しています。

現在の自分の限界を知って行動することは重要なことです。

ここの「bound」は「限界・境界」という意味ですが、語源が違う重要な別の意味がありますので、注意が必要です。まずは、「bind」（縛る）の過去・過去

分詞、次に「(ボールなどが) 跳ねる」
という動詞、さらに「(電車などの) 行
きの」という形容詞です。

684

No gain without pain.

日本語訳

痛み失くして得るものなし。

日本の諺としては、「苦は楽の種」が対
応しています。

要は、苦勞しないと得るものはないと
いう意味ですが、同じ意味で、「脚韻」

(end rhyme) を踏んでいてより完成度
の高い諺として、「No pain, no gain.」

があります。

因みに、変化形として、単数形が複数形に代わった、「No pains, no gains.」や「No gains without pains.」も使われています。

685

Apparel makes the man.

日本語訳

衣類が男を作る。

日本の諺としては、「馬子にも衣装」が対応しています。

この「馬子」とは、馬の手綱を引いて人や荷物を搬送していた職業のことで、

身分的には低い人々でした。その意味では、差別的な表現と言えます。英語の諺としては、古くから「The tailor makes the man.」や「Clothes make the man.」が使われています。因みに、「Clothes do not make the man.」という逆の諺もあります。

686

No rest for the wicked.

日本語訳

悪人に休みなし。

日本の諺としては、「貧乏暇なし」が対

応じます。

「wicked」という形容詞は、「邪悪な・悪意のある」という意味で、「the wicked」は「悪人」の意味になります。元々は、悪いことや法的に危ないことをしている人は「気が休まることがない」という文脈で使われていました。そこから、忙しくしている人が、冗談で、あるいは謙遜してこの表現を使うようになりました。

687

Dead men don't bite.

日本語訳

死んでいる人は噛まない。

日本の諺として、「死人」を含むものは、「死人に口なし」ですが、これは、「Dead men tell no tales.」が対応しています。

要は、死人は攻撃してこないというブラックジョークと言えます。

「bite」は「噛む・噛みつく」という元の意味から、「If you can't bite, don't show your teeth.」（もし噛みつく事ができないならば、あなたの歯を見せるな。）のように、「攻撃する」という比喩で使われています。

688

Beauty fades like a flower.

日本語訳

美貌は花のように色あせる。

日本の諺としては対応するものはありませんが、平安時代に絶世の美女と言われた小野小町の詠んだ歌を思い出します。

小倉百人一首にも選ばれている、「花の色は移りにけりないたすらに、わが身世にふるながめせしまに」という歌です。

少し、自信過剰とは思いますが、標記と同様に、小野小町は自分を花に見立てて「月日が過ぎて、自分の美貌も衰えてしまった」としています。

689

Looks can be deceiving.

日本語訳

見かけは騙していることがある。

日本の諺としては、「人は見かけによらない」が対応しています。

ほぼ同じ意味の諺として、「Appearances are deceptive.」が有名です。

ただし、標記の諺が「Looks are deceiving.」ではなく、「Looks can be deceiving.」であることにより、ニュアンスの違いが出てきます。

つまり、すべてが「見た目と違う」のではなく、「見た目通り」であるケースもあるということです。

690

As many heads, as many wits.

日本語訳

沢山の頭があれば、沢山の知恵がある。

日本の諺「三人寄れば文殊の知恵」の拡張形と言えます。

まず、上記の「文殊」ですが、これは「智慧」を司る菩薩であり、仏教画に描かれる釈迦三尊像の左の脇士として最も多く登場する菩薩です。

実際には比べようがありませんが、三人が知恵を出し合えば、文殊に近づけるという意味になります。

因みに、英語の諺としては、「Two heads are better than one.」があります。

691

Crime does not pay.

日本語訳

犯罪は割に合わない。

日本の諺には対応するものは見当たりません。

そもそも、標記のフレーズは現在では

諺とされていますが、20 世紀前半のアメリカ F B I の防犯スローガンだったと言われています。

またその際。アメリカの人気コミック「ディック・トレイシー」を利用したのキャンペーンだったと言われています。

「pay」は基本的には「支払う」という意味ですが、日本でも「ペイする」と使われているように、「支払うだけの価値がある」という意味でも使われます。

692

Custom makes all things easy.

日本語訳

習慣はすべてのことを容易にする。

日本の諺としては、「習うより慣れよ。」が対応しています。

因みに、この「習うより慣れよ。」は一般的に「Practice makes perfect.」が対応するとされていますが、標記の諺のニュアンスも納得感がありますね。

要するに、「Practice」が努力を要求している感があるのに対して、「Custom」は肩から力が抜けている感があり、「慣れよ」にはより相応しいということです。

693

Every man has his faults.

日本語訳

すべての男には彼の欠点がある。

日本の諺としては、「無くて七癖」が対応しているとされています。

ただし、「癖」は「欠点」であることが多いとは言え、実害のないものもありますので、ピッタリ対応しているとは思えません。

要は、「No man is perfect.」ということであって、「無くて七癖」ということではないわけです。

因みに、「fault」は「失敗・ミス」として理解されていますが、「欠点」や

「失敗の責任」の意味でも使われます。

694

Beauties die young.

日本語訳

美人は若くして死ぬ。

日本語の慣用句では、「美人薄命」あるいは「佳人薄命」ということになります。

神が呼んでいるのか、か弱さが美人の要素なのか、若くして死んだ美人が語り継がれるためか、洋の東西を問わず、同じことが言われています。

「beauty」を含む有名な諺として、
「Beauty is in the eye of the beholder.」（美は見る人の目の中にある。）や「Beauty is but skin-deep.」（美貌は皮一枚の深さである。）があります。

695

After a calm comes a storm.

日本語訳

嵐の後には嵐が来る。

日本の慣用句としては、「嵐の前の静けさ」が近いでしょうが、ピッタリでは

ありません。

イギリスや日本もそうですが、温帯に位置する国々の天気は、晴天と荒天を交互に繰り返すものです。標記の諺も表面的にはこのように解釈できます。

比喩的には、「平時において乱を忘れず。」の教訓として使われます。

前後を逆にした、「After a storm comes a calm.」の方が有名です。

696

Misfortunes always come in pairs.

日本語訳

不幸はペアでやってくる。

日本の諺としては、「弱り目に祟り目」が対応しています。

洋の東西を問わず、悪いことが重なることは経験則として知られていたということです。

同じ主語を使った、「Misfortunes never come singly.」（不幸は一つだけでは来ない。）という諺もあります。また、「One misfortune call another.」（一つの不幸は別のものを呼ぶ。）も同じ意味です。

697

Strike while the iron is hot.

日本語訳

鉄が熱いうちに打て。

日本の諺として、「鉄は熱いうちに打て。」がありますが、どうも標記の諺の翻訳のようです。

科学的に言うと、鉄は高温の時にハンマーなどで叩くと、炭素などの不純物のはじき出されて、鉄の強度を高めることになるということです。

比喩的には、進行中の出来事に即座に対応すること、あるいは、人の教育において、早い時期に鍛えよという場合に使われます。

698

Catch as catch can.

日本語訳

キャッチができるだけ捕まろ。

日本の諺としては、欲張りの勧めのよ
うなものは見当たりません。

古代のランカシャー発祥のレスリング
用語として知られています。

意訳すると「勝負に貪欲になれ」と意
味になります。

貪欲の奨励として、「Seek mickle and
you get something, seek little and
you get nothing.」（多くを求め何かを

得よ、少しを求めれば何も得ない。) という諺があります。

699

Blood will tell.

日本語訳

血は話す。

日本の諺としては、「血は争えない」が対応しています。現代的に言うところ「DNA will tell.」ということでしょうか。

しかし、日本の諺として、「氏より育ち」、英語の諺としても、「Nurture is above nature.」(養育は天性の上にあ

る。) など、標記に対立するものもあります。

「Blood」を含む最も有名な諺として「Blood is thicker than water.」(血は水よりも濃し。) や「Blood will have blood.」(血は血を呼ぶ。) があります。

700

Hunger has no law.

日本語訳

空腹は法律を持たない。

日本の諺としては、「背に腹はかえられ

ない。」に通じるものがあります。
ピンと来ませんが、「腹」の方が大切で、
「背」はその代わりにならない、とい
う意味のようです。

「no law」を含む諺として、
「Necessity knows no law.」（必要性は
法律を知らない。）があります。

また、「Hunger」を含む最も有名な諺と
して、「Hunger is the best sauce.」
（空腹は最高のソースである。）あり
ます。